

平成三十年

1月号



山岳救助隊 ニュース



埼玉県警察
山岳救助隊
秩父警察署
TEL0494-24-0110
小鹿野警察署
TEL0494-75-0110

本紙は埼玉県警察ホームページ【暮らしの安全 → 山岳情報 → 山岳救助隊ニュース】に掲載されています

平成 29 年【11～12 月】埼玉県内の山岳遭難発生状況 件数 9 件 9 人（死亡 2 人・重傷 6 人・軽傷 1 人）

発生日	山岳名	PT構成	年齢・性別	遭難状況等	死傷別
11月 7日	武甲山	単独	70代・男性	段差を上がろうとしたところバランス崩し転倒	重傷
11月 18日	大持山	1153人	50代・男性	トレラン大会中、大持山手前の斜面で滑落	死亡
11月 19日	三峰山	単独	60代・女性	下山中、つづら折りの登山道で足を滑らせ滑落	重傷
11月 21日	日和田山	単独	70代・男性	金毘羅神社付近で体調不良となり、登山道から滑落	軽傷
12月 2日	蕨山	単独	60代・男性	下山中、湿った登山道の砂利に足を滑らせ転倒	重傷
12月 4日	白泰山	単独	60代・男性	鳥類の狩猟で入山、山道から滑落し井戸沢で発見	死亡
12月 14日	両神山	単独	50代・男性	下山中、弘法の井戸付近の凍結箇所です足を滑らせ転倒	重傷
12月 15日	武甲山	単独	40代・男性	下山中、長者屋敷の頭付近で岩に躓き転倒	重傷
12月 31日	両神山	単独	20代・男性	下山中、弘法の井戸付近の凍結箇所です足を滑らせ転倒	重傷

トレイルランニングについて考える

最近、埼玉県内においても“トレイルランニング”いわゆる「トレラン」を楽しんでいる方を多く見かけるようになりました。トレランは登山道や林道などの舗装路以外の山野を走るスポーツで、全国各地で様々なトレラン大会が開催されています。

トレランは平地を走るマラソンとは違い、大自然に囲まれた山々で、雄大な景色を眺めながら走り、山頂までの山野を走り終えたときの達成感や、充実感が人気の一つとなっているのかもしれませんが。

そんな、話題のスポーツ「トレラン」ですが、人気がある一方で懸念される問題をトレランのランナーの皆様、考えてみませんか。

一つ目は安全対策についてです。トレランのランナーたちは皆、軽装で軽やかな足取りで山々を走ります。登山の経験がなくトレランを始めた人の中には、携帯品の軽さばかりを追求し、持っているのは水と薄手の上着だけ、という人が実際にいるのです。過去、山岳パトロール中にトレランのランナーに対し安全指導を行おうとしたところ、「我々はトレランですから～」と言って走り去った人もいました。厳しい自然の中に入ることには変わらず、走っていればなおさら視線が足元に集中して、周囲を見回す視野が狭くなるため、道迷いや滑落、転倒といった事故に遭遇することは十分に考えられます。入山するからには万が一の場合に自分の命を守る装備を準備していただきたいと思います。

二つ目は環境保護についてです。特にレースの場合には、狭い登山道でランナー同士が追い越す、追い越されるといったチェイスで登山道脇の植物が踏まれてしまうことや、登山道外の地面が踏み固められてしまうことが懸念されます。

三つ目は登山者との関係です。登山は歩く、トレランは走るためスピード感が全く違います。「予め声を掛けてから登山者を追い越す」、「必要に応じてスピードを緩める」など「お互い様」の譲り合う気持ちを持つことで、登山道で接触して滑落…といった事故を防ぐことに繋がります。

今年の11月にはトレラン大会に出場していた50代の男性が滑落して亡くなる山岳事故が発生しています。事故発生時には、レース参加者も大会主催団体や警察消防と協力して、救助支援を行うことで迅速な救助活動に繋がります。



冬山の山岳遭難の防止

● 朝早い時間に出発、目的地に早く到着（早出早着の基本）

早い時間に下山または目的地に到着できる時間にゆとりある登山計画を立てましょう。

樹林帯の中では、日没時刻よりも早く辺りが暗くなってきます。日帰りの予定でもヘッドライトを携行しましょう。

秩父市内	日の出	日の入
1月10日	6時55分頃	16時48分頃
1月20日	6時52分頃	16時57分頃
1月30日	6時47分頃	17時08分頃
2月10日	6時37分頃	17時19分頃
2月20日	6時26分頃	17時29分頃
2月28日	6時16分頃	17時37分頃

● 予想外の天気、気象遭難に注意

麓は雨でも、山頂付近では積雪していることもありますので、事前に天候情報を調べ、天候によっては登山計画の変更や中止を検討してください。

● 万全な装備と寒さ対策

日帰りでも携行品の軽さばかりを追求せず、ヘッドライトや十分な食料など、万が一の場合に備えてビバーク（緊急時に野宿すること）することができる最低限の装備を準備しましょう。標高100メートル上がるごとに、気温は約0.6度下がると言われていますので、防寒着を確実に携行しましょう。

低温下では、携帯電話や照明具の電池類の消耗が早まります。いざ使おうと思ったら電池切れ、という不測の事態に備えて、寒冷地に強い電池の準備や、予備電池の保温対策を施しましょう。

● 登山道の凍結に注意、アイゼンは事前に調節するべし

確実にアイゼンを携行し、**わずかな区間の凍結であっても、こまめにアイゼンの着脱**を行いましょう。凍結箇所が落ち葉で埋もれていると、凍結に気が付かず転滑落する危険があるため、特に日当たりの悪い場所では慎重に歩くようにしましょう。**登山道を横切るわずかな沢（凍結）でも滑落事故が発生！**

● 登山届を必ず提出

登山届は、山岳遭難が発生した時に、警察による捜索、救助活動を迅速に行うための手掛かりとして活用するものです。

低山や日帰りの計画だから大丈夫、と根拠のない自信は遭難の元です。自分だけは絶対に遭難しないという保証はありません。万が一の場合に備え、登山届を提出しましょう。

登山届は登山する山を管轄する警察署や交番、登山ポストに提出し、家族や職場にも登山届の写しを渡しておきましょう。



携帯版登山届 QRコード変更

★携帯電話の電波が入る場所で、いつでも登山届を提出することができます。

★届出の内容は必要最小限の入力となっています。

★**埼玉県内**の山登り等を計画している方は、ぜひご利用ください。

携帯電話用
いわゆる「ガラケー」



スマートフォン用



携帯版登山届は、登山届の作成を忘れた、急遽目的地を変更する、などの場合でも移動中の電車やバスの中から手軽に登山届を提出することができます。安全登山の第一歩は登山計画を立て登山届を提出することから始まります。

秋の日は
約雁落とし

